

取組事例の紹介

- ①長野県河川課
- ②長野県砂防課
- ③岡谷市
- ④宮田村
- ⑤駒ヶ根市
- ⑥大鹿村
- ⑦林野庁

天竜川上流河川事務所

令和8年2月25日

「流域治水」の推進について



【契機】

①近年、**水害が頻発化・激甚化** + ②**気候変動**の影響により**降雨量が1.1倍**

全国的に**流域治水**への転換が進められている中、**県の独自計画を策定**

「**長野県流域治水推進計画**」（令和3年2月策定）

計画期間：令和3～7年度（5か年）

内容：計画期間内で実施する取組目標を定め「流域治水」を推進



【概要】

流域治水

河川整備の取組
「流す」

- 堤防・護岸整備 ●河道掘削・支障木伐採 等

流域における雨水貯留等の取組
「留める」

- 公共施設における雨水貯留浸透施設設置
- 市町村における各戸貯留施設設置費補助制度
- 雨水排水規制ガイドライン等の策定
- ため池や水田を活用した雨水貯留の取組
- 流域の森林整備 等

まちづくりや住民避難の取組
「備える」～逃げ遅れゼロ～

- 危機管理型水位計・簡易型河川監視カメラの設置
- 浸水想定区域図の作成 ●住まいの工夫の取組
- 要配慮者利用施設における避難確保計画の策定
- 地域特性に配慮した「地区防災マップ」の作成
- 防災知識の普及に関する取組 等

長野県流域治水推進計画

普及啓発活動等

※役職名は宣言当時のもの

治水ONE NAGANO宣言(R3.5)

✓県と市町村が協力して「流域治水」を前に進めていく決意表明として「治水ONE NAGANO宣言」を実施



千曲川流域治水サミット(R5.1)

✓流域治水を本格的に展開するため、新潟県・長野県の首長等が一堂に会し、上下流一体で課題や取組を共有



流域治水シンポジウム

✓信濃川・天竜川水系にスポットをあてたシンポジウムや、土木学会水工学委員会や国・県・市等で構成された水シンポジウム等、流域治水の方向性や一人ひとりができることを議論

天竜川水系流域治水シンポジウム(R4.12)

主催：天竜川上流河川事務所、長野県



水シンポジウム(R6.10,11)
主催：「第28回水シンポジウム2024 in ながの」実行委員会
(国交省北陸地整、長野県、長野市他)

その他の普及啓発活動



【模型・動画の制作】
流域治水の取組を紹介している啓発動画作成や模型の製作し、防災学習を行っています。

主な取組の進捗状況 (R6年度末時点)

※目標数は「R3～R7の5か年に実施する目標数値」を示す

公共施設における雨水貯留浸透施設設置

【県有施設における雨水貯留タンク設置】

実施済:367基 (目標数:439基)

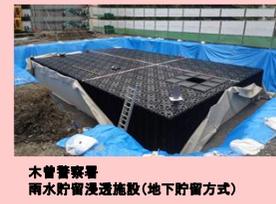
【市町村の所有する施設での雨水貯留浸透施設設置】

実施済:44市町村 (目標数:77市町村)



【県有施設における雨水貯留浸透施設設置】

実施済:5施設 (目標数:20施設)



市町村における各戸貯留施設設置費補助制度

実施済:11市町村 (目標数:12市町村)



公共下水道(雨水)の整備

実施済:128ha (目標数:335ha)



水田を活用した雨水貯留の取組

実施済:5市町村 (目標数:6市町村)



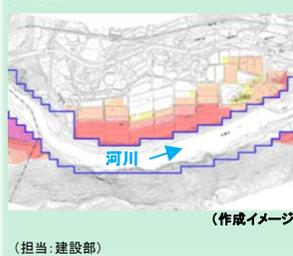
ため池を活用した雨水貯留の取組

実施済:430箇所 (目標数:404箇所)



浸水想定区域図の作成

実施済:218河川 (目標数:218河川)



地区防災マップの作成

実施済:72市町村 (目標数:77市町村)



信州防災アプリ登録者数

実施済:45,277人 (目標数:100,000人)



令和7年度の主な取組

○「長野県流域治水推進計画」に位置付けられた各取組の推進

- ・県有施設及び市町村所有施設での雨水貯留浸透施設設置
- ・ため池・水田を活用した雨水貯留
- ・支流域の森林整備 ・公共下水道(雨水)の整備
- ・市町村における各戸貯留施設設置費補助制度
- ・雨水排水規制ガイドライン等の策定 ・浸水想定区域図の作成
- ・地区防災マップの作成 ・信州防災アプリ など

○普及啓発活動(CM放送、ポスター掲示、パネル展など)

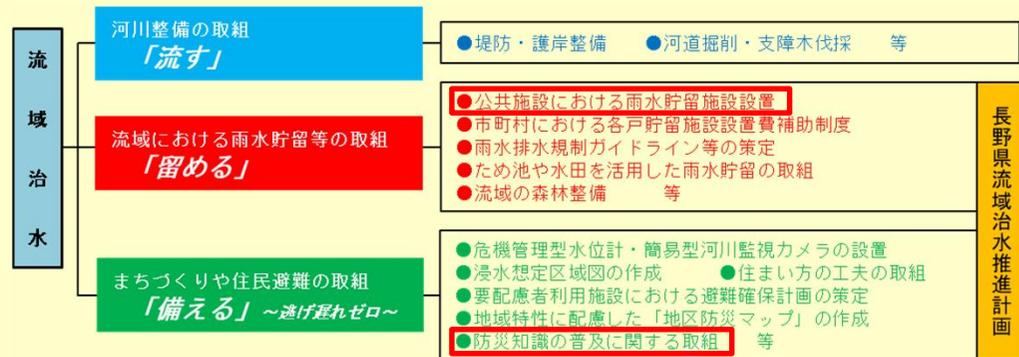
○流域治水模型及び学習用動画を用いた防災教育の実施

○災害リスクの低い地域への公共施設の立地や居住誘導の促進に資する水害リスクマップの検討



【取組事例】 ③被害の軽減早期復旧・復興のための対策

- 長野県では、令和3年2月に「長野県流域治水推進計画」を策定し、県・市町村が5年間で実施する流域治水の取組の数値目標を定め、計画的に取り組んでいます。
- 公共施設における雨水貯留施設設置として、千曲警察署と〇〇において、雨水貯留浸透施設の設置を進めています。
- 子ども達にもわかりやすく、楽しく「流域治水」を学んでもらえる「流域治水模型」での実験や学習動画を活用した防災教育を実施しています。その他にCM動画を作成し、テレビCMやYouTube・LINEなどの広告、映画館の上映前の広告等、様々な媒体での広報を行っています。



◆公共施設における雨水貯留浸透施設設置に関する取組内容

- 県有施設である県立高校や道の駅の駐車場等へ地下貯留浸透施設設置や透水性舗装を整備



上田千曲高校 雨水貯留浸透施設（地下貯留方式）



雷電くるみの里 雨水貯留浸透施設（透水性舗装）

◆防災知識の普及に関する取組内容

- 模型実験に合わせ、学習動画で「流す」「留める」「備える」取組を学び、実際に「留める」取組をじょうろを使い水を降らせることで体験しながら学習します。模型で効果を見ながら、実際に身近でできる取組を考えるきっかけを創出しています。
- その他、防災学習カードを作成し、どの警戒レベルでは何をすべきかを遊びながら学べます。
- R7年度はTV、Web広告（YouTube、LINE、Yahoo）、街なかメディア（映画館、ファミリーマート、綿半、駅）にて広報動画の放映し、流域治水の取組を広げています。



防災教育、イベント



流域治水の学習・啓発動画



防災学習カード



対策あり 対策なし
流域治水模型



動画放映

【取組事例】 ②被害対象を減少させるための対策

激甚化する災害に備えるため、住民が災害を地区の課題として捉え自ら行動する意識付けが重要と考えています。地域の防災力を高める取組として、「我が事として捉える防災意識の醸成」と、「地区防災マップの作成支援」を実施しています。

◆我が事として捉える防災意識の醸成(赤牛先生派遣事業・つなげる防災教育事業)

- 赤牛先生派遣事業
 - ・避難の基本「自分の命は自分で守る」を説く赤牛先生が、県下各地の学校や公民館などで防災講座を実施
 - ・赤牛先生は、地域に根ざし、土砂災害の経験豊富な砂防専門家「長野県砂防ボランティア協会(会員約500名)」が担当
 - ・自身の災害対応の経験に基づき、参加者目線で、児童・教員や地区住民など幅広い範囲を対象に講座を実施
- つなげる防災教育事業
 - ・従来の座学による防災講座に加え、実際の避難訓練等と連携したより実践的な防災教育の実施

《赤牛先生派遣事業》



小学校での児童・教員向け講座



地区住民向け講座

《つなげる防災教育事業》



市町村の避難訓練への助言



要配慮者施設の避難訓練へ助言

◆地区防災マップの作成支援

- 地域住民が主体的に避難することを目的とした「住民主導型警戒避難体制」の構築を促進
- 住民参画による地域特性に配慮した地区防災マップの作成、マップに基づく避難訓練で検証

《取組の流れ》



住民懇談会による
自主避難ルール
の策定



自主避難ルールを周知するための
リーフレットの作成



自主避難ルールに基づく
避難訓練の実施・運営

【取組事例】 ②被害対象を減少させるための対策

◆「信州 砂防情報マップ」の開設

- 県内の砂防関係情報を一元的に管理するシステムの構築により、情報管理の業務の効率化(DX化)とともに、情報の一般公開を実現
- 県砂防課の運用するWEBサイト「信州 砂防情報マップ」を開設(令和7年4月1日)



掲載情報

- ・土砂災害警戒区域等
- ・砂防三法区域
- ・雪崩危険箇所
- ・砂防設備
- ・航空レーザ測量データ (R2~R3砂防課取得)
- ・その他関連情報 (洪水浸水想定区域図など)

アクセス方法

信州砂防情報マップ



マップの特徴①

- ・土砂災害警戒区域等の基礎調査結果を確認できる
- ・航空写真や赤色立体地図等、複数の背景図の選択が可能で、地形や土地利用等を分かりやすく表現



マップの特徴②

- ・砂防設備の情報を確認できる
- ・県管理の砂防設備の位置と諸元を公開し、溪流の安全性の見える化による地域防災力の向上を支援



天竜川上流流域治水プロジェクト2.0【取組事例】

実施主体：県・岡谷市

【取組事例】 ①氾濫をできるだけ防ぐ、減らすための対策

○近年多発する集中豪雨により、市街地内において家屋等の浸水被害が増加しています。平成25年8月15日豪雨(最大時間雨量72mm)では、床上11戸、床下33戸の浸水被害を受けました。このため、特に被害が大きかった塚間川流域におきまして、河川事業と下水道事業(雨水渠)の連携により、危険性が高い地域への集中的な整備を実施しています。

● 溢水状況



● 対策の概要

- 河川整備(河道拡幅、調節池)、下水道整備(雨水渠)、流域における貯留浸透施設の整備等により、流域全体での対策を実施
- 河川管理者である長野県、下水道事業者である地元岡谷市、地域の住民(団体)等が連携して対策を実施

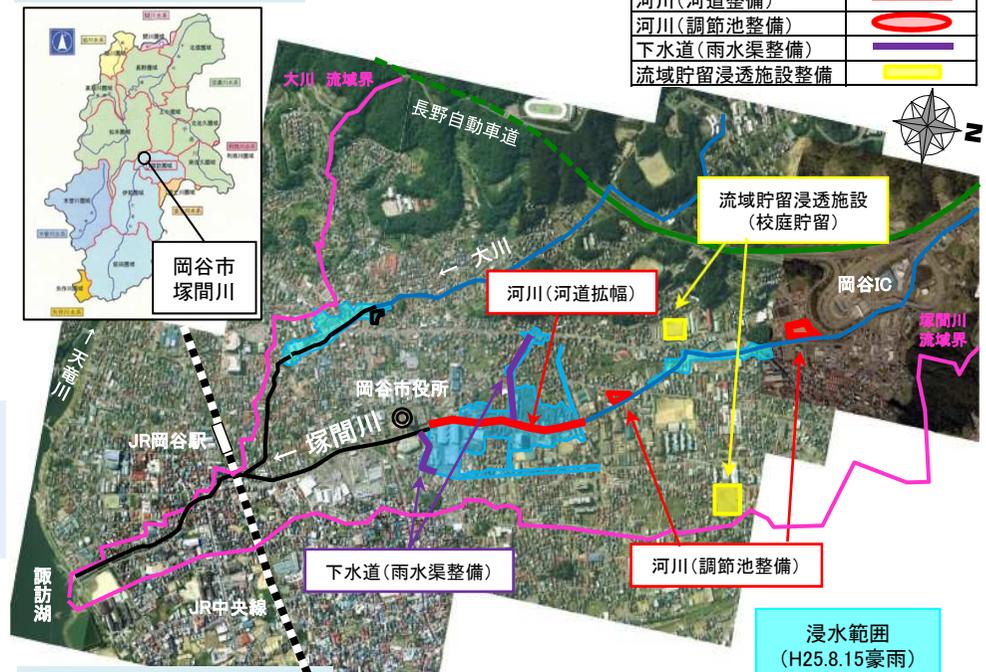
● 役割分担

長野県	河道拡幅、調節地整備、雨水貯留浸透施設整備
岡谷市	雨水渠整備
県・市・自治会・消防団	防災訓練・水防訓練等の実施

● 塚間川流域における対策実施による軽減効果

浸水状況	床上浸水(戸)	床下浸水(戸)	浸水面積(0.2m~)(ha)
実績	2	22	11.4
対策実施後	0	0	0.9
(効果量)	▲2	▲22	▲10.5

● 整備箇所図



● 対策済箇所状況



【取組事例】 ①氾濫をできるだけ防ぐ、減らすための対策

○流域治水、水資源の有効利用、防災意識向上を目的に、雨水タンクなどの雨水をためる施設を設置される住民に対して、施設を設置するのに要する購入費及び工事費を補助
一般住宅向けの補助金です

タンク容量	補助率	上限補助額
100～ 500L未満	1/2	25,000円
500L～	1/2	50,000円

補助実績

タンク容量	R6年度	R7年度 1月末現在
250L	1件	0件
500L	2件	0件

【対象経費】

雨水貯留施設を設置するのに要する購入費及び工事費

【対象者】

村内に住宅などをお持ちの方
 住宅などを借りている方で、建物所有者の同意を得ている方



設置例

(考察)

制度を利用する人が少ないですが、今後は、住民にとって「治水」という遠い目的を、「庭仕事の便利さ」や「災害時の安心」という身近なメリットに結びつける工夫が、補助金制度を「生かす」鍵になると考えています。

【取組事例】

③被害の軽減早期復旧・復興のための対策【地域住民の先進地視察】

〇市内の河川関係団体(天竜川改修同盟会・上穂沢川対策委員会)で、令和元年に千曲川で発生した災害からの復旧状況、氾濫をできるだけ防ぐ、減らすための対策を行っている先進地や防災拠点での活動や役割を視察しました。

●上穂沢川対策委員会 高森町山吹地区『MIZUBEステーション』



緊急時の活動拠点、平常時での利用計画など事業中の現地で説明をいただきました。

●上穂沢川対策委員会 天竜川総合学習館『かわらんべ』



「かわらんべ」で学習館の役割や三六災から治水対策事業完成までの説明をいただきました。

●天竜川改修同盟会 千曲川 長野市長沼地区



東日本台風の災害復旧と信濃川水家緊急治水対策PJについて説明をいただきました。

●天竜川改修同盟会 長野市 浅川大池(ため池雨水貯留)



ため池を活用した雨水貯留について説明をいただきました。

●天竜川改修同盟会 長野市 運動公園雨水調整池



都市部の水害防止対策となる地下調整池について説明をいただきました。

●天竜川改修同盟会 長野市 浅川ダム



浅川水系の治水対策と浅川ダムについて説明をいただきました。

【取組事例】 防災教育や防災知識の普及に関する対策

住民等への周知・教育・訓練・情報伝達設備に対する取組

- 急峻な地形に囲まれている当村は、河川の氾濫、地滑り、崩落地等の危険地域が多数存在する。(孤立地域への対応)
- 自助・共助・公助による災害に強い村づくりを、小児から高齢者まで防災意識の向上を推進
- 国の補助金制度を活用し、情報配信機能の多重化を実現する。(高齢者の聞き逃し、村外勤務者への情報伝達)

地域の特徴

- 人口減少・**高齢化**率が高水準
- 村96%が森林面積 **急峻な地形**
- **4河川**が合流する浸水危険地域
- 村に通じる主道路は一つ、**孤立**する危険性、多くの村外勤務者

課題

- 高齢化世帯・**一人暮らし**の防災対策
- 想定災害による危険箇所の**把握と避難**
- **孤立**対策と**帰宅困難者**への対応
- 確実な**災害情報**を配信・提供

目指す姿

- 行政・村民・福祉が一体となり地域の**暮らしと安全を支える仕組み**を構築
- 高齢者世帯、村外勤務者にも確実に情報提供出来る**情報配信設備の整備**
- 自助、共助、公助による**災害対応力を強化**し災害に強い村づくりの実現

取組

避難対策

- 住民避難マニュアル簡易版更新
- 避難所開設訓練
 - ・避難所確認
 - ・災害備品取扱
 - ・炊出し訓練
 - ・救護訓練



防災教育

- 小学生対象防災教育
 - ・ハザードマップによる住まい、地域の危険箇所の把握
 - ・災害備蓄品の確認



孤立対策

- ドローン取り扱い業者と、**災害時物資輸送協定**を調整中



災害対策（ハード面）

- 同報無線設備の操作卓から、各ツールへ**災害情報の配信**を構築(情報配信の多重化)
- 国の補助金制度(補助率100%)を活用
 - ・(過疎地域持続的発展支援事業)
 - ・現状、同報無線による音声発信のみであるが、多重化により、**高齢者の聞き逃し、村外勤務者へ情報提供が可能**

大鹿村役場

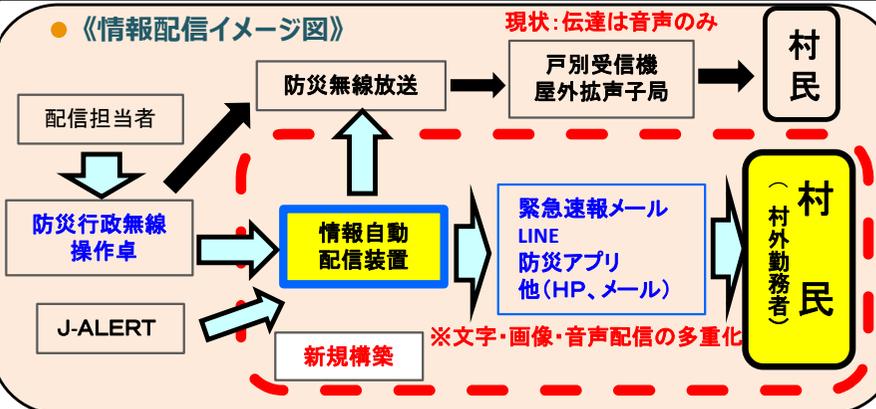
情報配信

居住者
(一人暮らし)

村外勤務者
(身内)

(見守)

《情報配信イメージ図》



令和3年5月20日から避難情報が変更されています。
内容を確認し非常時に備えてください。

警 戒 レベル	新たな 避難情報等	情報の内容	これまでの 避難情報等
5	緊急安全確保	災害が発生又は切迫している状況、即ち居住者等が身の安全を確保するために立退き避難することがかえって危険であると考えられる状況において、いまだ危険な場所にいる居住者等に対し発令する。	災害発生情報 (発生を確認したときに発令)
<警戒レベル4までに必ず避難！>			
4	避難指示	災害が発生する恐れが極めて高い状況等で、その地域の住民全員の避難行動の開始を指示する。 指定避難所への避難はかえって命に危険が及ぶと住民自らが判断する場合は、屋内の二階以上の場所や河川等から遠い場所へ退避する行動をとる。	・ 避難指示(緊急) ・ 避難勧告
3	高齢者等避難	人的被害の発生する可能性が高まった状況で、一般住民に対しては避難の準備や自主的な避難を呼びかけ、避難行動に時間を要する高齢者や障害のある人等及びその支援にあたる人には避難行動の開始を呼びかける。	避難準備・ 高齢者等避難開始
2	大雨・洪水・高潮注意報（気象庁）		同左
1	早期注意情報（気象庁）		同左

◎避難情報の発令

○避難情報は、大鹿村が一定の判断基準により、避難地域・避難方法・避難所を示し、「高齢者等避難」「避難指示」「緊急安全確保」の情報を、同報無線及び携帯電話のエリアメールを使って発令します。

なお、避難時の周囲の状況等により、屋内にとどまっていた方が安全な場合等やむを得ないときは、屋内の二階以上の場所や河川等から遠い場所への退避等を指示します。

○地域の皆さんは避難情報が出た場合、防災訓練での避難の心得により、協力し合っ
て避難所等に避難してください。

○役場からの避難情報が出されていなくても、身の周辺に危険が迫っていると判断した場合は、ためらうことなく避難してください。

◎避難情報の判断基準・住民が取るべき行動

避難情報	村の判断基準（例）	住民がとるべき行動
高齢者等避難	<ul style="list-style-type: none"> ○降り始めからの累加雨量 150 mm以上で、今後も大雨が続く見込み ○土砂災害警戒情報 ○南海トラフ地震臨時情報（調査中） ○南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒） 	<ul style="list-style-type: none"> ○いつでも避難できるように避難の準備をする。 ○高齢者等は避難を開始する。 ○ラジオやテレビの放送、村からの広報に注意する。
避難指示	<ul style="list-style-type: none"> ○大雨特別警報等 ○記録的短時間大雨情報 ○南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意） ○危険な水位 ○緊急地震速報 	<ul style="list-style-type: none"> ○指定避難所に直ちに全員避難を始める。 ○屋内で身の安全を確保できるか等を確認の上で、自らの判断で屋内安全確保することも可能である。
緊急安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ○災害が発生又は切迫している状況で、居住者等が身の安全を確保するために立退き避難することがかえって危険であると考えられる状況 	<ul style="list-style-type: none"> ○命の危険を回避するため、緊急に安全を確保する行動をとる。

◎指定避難所の確認

名 称	所 在 地	収容能力(人)	電 話
大鹿小学校体育館	大河原 476-10	411	39-2020
大鹿中学校体育館	鹿 塩 2952	362	39-2220
公民館 鹿塩地区館	鹿 塩 2610-1	84	39-2200
大鹿村交流センター	大河原 391-2	113	39-2100
道の駅 歌舞伎の里大鹿	大河原 390	37	39-2844
ふれあいセンターあかいし	大河原 476-8	46	39-2865
（参考）東部地区館	鹿 塩 1229-3	29	—

○指定避難所

災害の危険性があり、避難した住民等を災害の危険性がなくなるまで必要な期間滞在させ、または災害により家に戻れなくなった住民等を一時的に滞在させることを目的とした施設であり、市町村が指定するものです。

○指定緊急避難場所

災害による危険が切迫した状況において、住民等が緊急に避難する際の避難先として位置づけるもので、住民等の生命の安全の確保を目的とするものです。

各自治会で災害の発生想定（大地震、大雨、洪水、地すべり、火災など）により適した場所を協議しておいてください。

【取組事例】 三峰川上流域・流域治水推進に向けた取り組み

○地球温暖化に伴う降雨の激甚化により、三峰川上流域においても土砂流出・流木被害が頻発していることから、三峰川上流域に関係する行政機関が連携して、緩和策と適応策等を推進し、当地域における脱炭素社会の構築と流域治水の推進を目指す。

◆三峰川上流域事業連絡会

天竜川上流河川事務所
三峰川総合開発工事事務所
天竜川ダム統合管理事務所
林野庁南信森林管理署
長野県上伊那地域振興局
長野県伊那建設事務所
伊那市建設部
伊那市農林部
伊那市長谷総合支所



三峰川上流域事業連絡会合同会議及び現地調査実施状況
(令和4年9月26日)

○役割

森林部局：育林・治山【緩和策・適応策】
ダム部局：ダム堆砂対策、流木対策【適応策】
砂防部局：土砂災害対策・流木対策【適応策】
伊那市：流木の再資源化【抑制策】

○期待される効果

- ・カーボンニュートラルの推進
- ・流域の安全性向上
- ・流域治水の推進→治水関係予算の確保、新規事業展開
- ・流域の水力発電施設の保全【緩和策】

○現在の取り組み・今後の予定

- ・令和4年度に合同会議、現地調査を実施。
引き続き、各部局合同での協議、勉強会等を行う。



【取組事例】 【林野庁との連携】 三峰川上流域における流木対策（流域治水施策#14流域流木対策）

○天竜川（上流）水系は、土砂流出が活発な急流河川であり、近年の頻発化・激甚化する土砂災害に対応するため、「氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策」として、上流域における砂防堰堤等の整備を促進し、下流域への土砂や流木の流出による被害や河道閉塞による洪水氾濫被害等の土砂災害リスクの軽減化を図る。

小瀬戸第1砂防堰堤

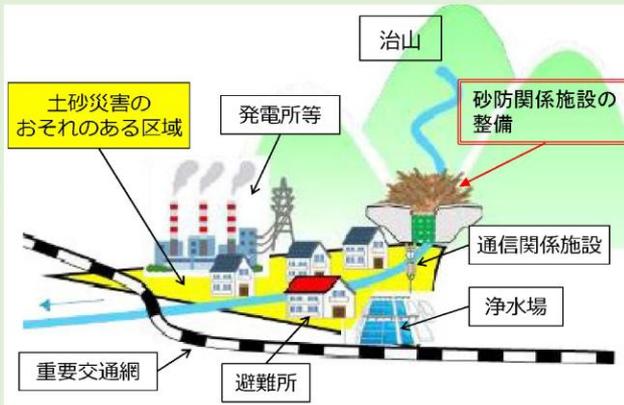
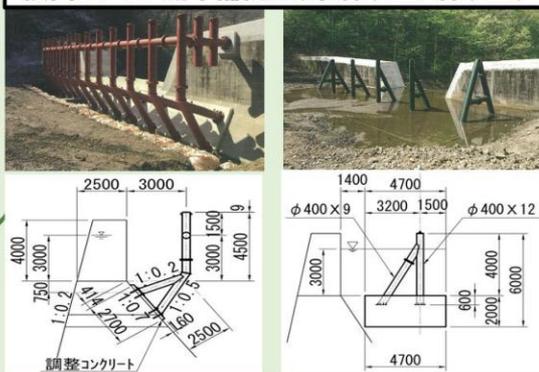


小瀬戸第2砂防堰堤



【砂防】 砂防堰堤に流木捕捉工を付加し、流木の流出防止対策を実施

張出しタイプ流木捕捉工(未滿砂型、満砂型)



【治山】 上流域の荒廃森林を適切に整備し、流木の発生源対策を実施

森林の機能を発揮するための森林整備



治山施設の整備等を通じた森林の防災・保水機能の発揮 (辰野町内国有林における山腹工による復旧事例)

タイプの異なる治山ダムの効果的な組合せ



⇒「上流域における流木の発生源対策」と「本川における流木の流出防止対策」を合わせて実施することで、下流域への土砂や流木の流出による直接的な被害や、河道閉塞による土砂洪水氾濫被害を防止する

【取組事例】 ①氾濫をできるだけ防ぐ、減らすための対策

大鹿村塩川床固工群

《完成式》

日時：令和7年10月25日

場所：大鹿村交流センター

出席者：国会議員、長野県議会議員 ほか

塩川床固工群について

【整備の目的】

・塩川と鹿塩川の合流点付近に位置する塩川床固工群は、三六災害を契機として災害復旧工事が実施されました。しかし、建設から50年が経過しており度重なる洪水によって施設は損傷していました。また、河道断面不足や塩川と鹿塩川との合流点における異常洗掘などの問題もあり、早急に事業を実施する必要があります。
塩川と鹿塩川の合流点において流下能力の確保と、異常洗掘などの問題点を解決し、流域環境の保全を図ることを目的としました。

【塩川の川づくり】

- ・住民アンケート調査（H17年度）
- ・施設設計に対する景観検討（H17年度）
- ・住民アンケート調査（H18年度）
- ・「大鹿村における砂防施設の景観形成検討委員会」、「塩川床固工群景観ワークショップ」の開催（H20年度）

《大鹿村における砂防施設の景観検討委員会》

○メンバー 小西純一信州大学名誉教授、自治会長、村長、河川管理者、国交省

《塩川床固工群景観ワークショップ》

○メンバー 自治会長、近隣旅館、塩の里運営委員会、村長

ワークショップで頂いた地域の方々の景観づくりに関する思いや意見・アイデアをとりいれ、「塩の里」を中心とした、親水護岸工、周遊できる遊歩道、景観に溶け込む床固工の曲線設計など景観保全や親しみやすい砂防施設を目指し施設設計を行いました。



ワークショップの風景

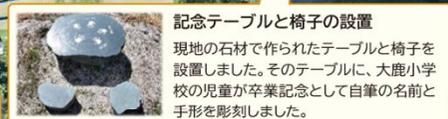


親水階段工
・「塩の里」から川に真っすぐ降りる階段を設け、親水面の利用価値を高めました。
・アーチ曲線形状とし、川に向かって階段が広がるため開放感があります。

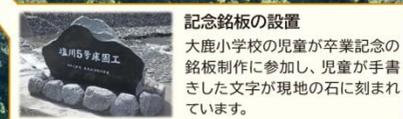


平成23年 塩川合流点上流 (着手前)

令和7年 塩川合流点上流 (完成)



記念テーブルと椅子の設置
現地石材で作られたテーブルと椅子を設置しました。そのテーブルに、大鹿小学校の児童が卒業記念として自筆の名前と手形を彫刻しました。



記念銘板の設置
大鹿小学校の児童が卒業記念の銘板制作に参加し、児童が手書きした文字が現地の石に刻まれています。



塩川橋開通
夫婦三代家族を先頭に渡り初め

施設諸元	
位置	長野県下伊那郡大鹿村鹿塩地先（塩川）
施設計画	溪流保全工延長 820m 床固工8基
事業費	約33億6千万円
着工	平成23年度
完成	令和6年度

【取組事例】 ①氾濫をできるだけ防ぐ、減らすための対策

鹿塩川溪流保全工

《 着工式 》

日時:令和7年10月25日

場所:大鹿村交流センター

出席者:国会議員、長野県会議員 ほか



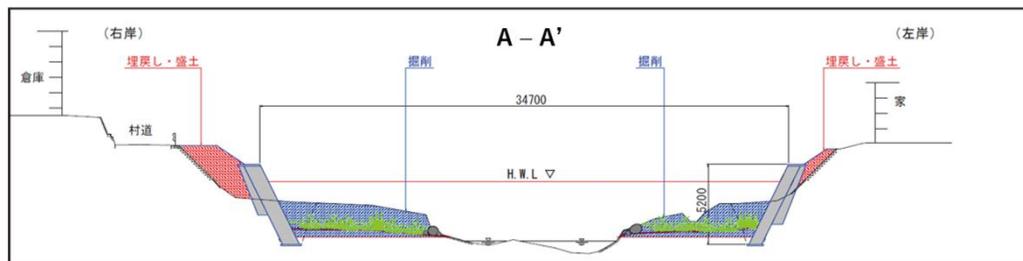
施設諸元

位置 長野県下伊那郡大鹿村鹿塩地先(鹿塩川)

施設計画 溪流保全工延長2,280m
床固工11基 帯工39基

事業目的

- ①著しく損傷・摩耗した砂防施設の改築と河床の安定化を図る
- ②想定される三六災害規模の洪水を安全かつ円滑に流下させる
- ③河川の流れの連続性を確保し水生生物の生息環境の改善を図る
- ④周辺環境と調和した景観の創出を目指す



▲鹿塩川溪流保全工 標準断面図



